荻堂口説

凡て四十一拍子　一拍子五分脈　二揚調

繰返し								
工	上	工	四	○	五	○	五	五
フ	ク	ザ	ン	ク	ヅ	イ	リ	
中	五	七	五	中	工	○	工	四
ヌ	ス	ヌ	トゥ	チ		ム	トゥ	ブ	タ	イ	ハ
○	五	○	五	中	五	七	五	中	工	○	工
ラ	ナ	チ	ジ	ン	グ	スィ	ク	ニ		イ	ク
中	工	○	四	○							
サ	ウ	シ	ユ	スィ							

一、北山くづれの其時本部大原
今帰仁城に軍おしよせ
水ももらさず取りよかこめば
按司の大将平敷大主
やぐらの上より敵を見下し
日ごろ手なれし五尺あまりの
（長刀打っ取り）城門おしあけ
よられ（よられ）と立出で
大勢群り（集る）中に（わって）飛び入り
人なき所を行くが如くに
たてさまよこさま切りよめぐれば
敵の軍勢（あらしに）（木の葉の）とぶが如くに
四方へ（さつと）（引きよ）退く
あっぱれ稀代の名将神か仏か
さて（さてさてさて）　※括弧内は上と同じ節まわしである